

NO. 333 『合縁奇縁』 あいえん きえん

＜ 意味 ＞ 不思議なめぐり合わせの縁。人と人とは互いに気心が合うかどうかは、みな因縁という不思議な力によるものであるということ。人と人との結びつきについていうが、特に男女の間柄についていう。

表 言 : 男女の仲は合縁奇縁

用 例 : 合縁奇縁ハ見てわからず。しかるを梅屋舗の腰掛にて。一寸見た計で縁談沙汰。

＜坪内逍遙・当世書生気質＞

語 釈 : 「合縁」はもと仏教語で、恩愛から起こる人と人との結びつきの意。「奇縁」は不思議なめぐり合わせの意。また、思いがけない不思議な縁の意。また、思いがけない不思議な縁の意。「愛縁奇縁」「相縁機縁」とも書く。

一 言 : ある日の我が家の日めくりカレンダーに「縁は異なもの味なもの」が載っており、その説明の中に「合縁奇縁」はこのことばの四字熟語。と書いてありました。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」